

備前市事務事業評価表

| 事業の概要 | | コード | 01-01-05-01 | |
|--------|---------------|-----------------|-----------------|------------------|
| 事務事業名 | 特定公共賃貸住宅助成金事業 | | | |
| | | 根拠法令・要綱等 | 特定公共賃貸住宅助成金交付要綱 | |
| 事業開始年度 | 平成13年度～ | | | |
| 総合計画 | 大項目 基本目標 | 安全で快適に暮らせるまちづくり | 問合せ先 | 担当課(室) 日生総合支所管理課 |
| | 中項目 基本施策 | 生活しやすいまちづくり | 職・氏名 | 課長代理 牛房裕二 |
| | 小項目 施策 | 定住化の促進 | 電話 | 0869-72-1254 |

| 事業の実施 | |
|---------------------------|---|
| 対象 (誰・何に対して) | 日生地域の特設公共賃貸住宅入居者 |
| 目的 (何のために) | 中堅所得者等に居住環境が良好な賃貸住宅を提供し、定住化を促進し市の活力の向上を図ります。また、過疎化に向かう日生地域の現状を踏まえ、若者定住対策の一環として安価で良質な住宅を賃貸し、生産年齢人口の減少を抑制することを目的とします。 |
| 行政活動 (どのような方法で) | 収入や部屋数に応じて、家賃に対する助成金の支払いを行っています。 (特定公共賃貸住宅戸数18戸) |
| 事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか) | 若者定住化促進 |

| 事業の実績 | | | | | | |
|-------|---------|------------------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 活動実績 | 実施項目 | | | | | |
| | 助成金交付人数 | 単位 | 平成17年度実績 | 平成18年度実績 | 平成19年度実績 | |
| | 17 | 人 | 14 | 16 | 16 | |
| | 171 | 件 | 168 | 132 | 132 | |
| | 53 | 人 | 46 | 50 | 50 | |
| | 100 | % | 100 | 91 | 91 | |
| | 3 | 件 | 2 | 2 | 2 | |
| | 事業費 | 直接事業費 | | 6,491 | 6,096 | 4,246 |
| | | 人件費 | 千円 | 2,515 | 3,100 | 330 |
| | | 事業費計 | | 9,006 | 9,196 | 4,576 |
| 財源 | 国県支出金 | | 0 | 0 | 0 | |
| | 受益者負担 | 千円 | 14691 | 13842 | 11897 | |
| | 一般財源 | | -5,685 | -4,646 | -7,321 | |
| 必要人員 | 人 | 0.30 | 0.30 | 0.04 | | |
| 結果指標 | 結果指標名 | | | | | |
| | 若者定住 | 説明 | 平成17年度実績 | 平成18年度実績 | 平成19年度実績 | |
| | 結果指標量 | 入居者数(H18.3.31現在) | 53 | 46 | 50 | |
| | 対前年比 | % | - | 86.8% | 108.7% | |
| | 活動コスト | 円 | 9,006,000 | 9,196,000 | 4,576,000 | |
| 結果指標 | 結果指標量 | 件 | 169,925 | 199,913 | 91,520 | |
| | 対前年比 | % | | | | |
| | 活動コスト | 円 | | | | |

| 事業の成果 | | | |
|-------|---------|---------------------------|--------------------------|
| 成果指標名 | 入居者数増加率 | 式又は説明 | 今年度入居者数 昨年度入居者数 × 100 |
| | | 定住化の促進を成果として捉えこの指標にしています。 | |
| 成果指標量 | 17年度 | 18年度 | 19年度 |
| 対前年比 | 132.5% | 86.8% | 108.7% |
| | | 65.5% | 125.24% |
| 到達目標値 | 100%以上 | 到達目標年度 | 毎年度 |

事業の目的、対象、内容を考えてながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

(平成19年度事業)

| 事務事業の評価 | | 妥当性評価<A-E> | B |
|---------|---|------------|--|
| 目的 | <input checked="" type="checkbox"/> 法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令) | 課題認識 | 中堅所得者の定住化を促進することは、市の活力の向上につながるが、現存の施設では戸数が限られているため、これ以上の定住化の促進は図れません。また、民間の賃貸サービスより家賃の設定が高いため、入居を希望する障害者となっています。現在は、若者定住対策として助成金の支給で家賃格差を埋めている状況ですが、吉永地域には助成金制度がないため、均衡を図る必要があります。別の視点からの考察としては指定管理者制度導入に関する研究を進めていく必要があります。 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である | | |
| | <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している | | |
| 対象 | <input checked="" type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある | 課題認識 | 事務処理の面で使用料の請求や収納の事務に改善の余地があるため、事務処理の効率化による人件費コストの削減を図る必要があります。また、受益者負担の適正化の観点から、近隣の賃貸サービスの実態を把握し、助成金制度のあり方や家賃の設定について改善が必要です。 |
| | <input type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない | | |
| | <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない | | |
| | <input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である | | |
| 行政活動 | <input type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である | 課題認識 | 事務処理の面で使用料の請求や収納の事務に改善の余地があるため、事務処理の効率化による人件費コストの削減を図る必要があります。また、受益者負担の適正化の観点から、近隣の賃貸サービスの実態を把握し、助成金制度のあり方や家賃の設定について改善が必要です。 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい | | |
| | <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である | | |
| | <input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい | | |
| 市の関与 | <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい | 課題認識 | 事務処理の面で使用料の請求や収納の事務に改善の余地があるため、事務処理の効率化による人件費コストの削減を図る必要があります。また、受益者負担の適正化の観点から、近隣の賃貸サービスの実態を把握し、助成金制度のあり方や家賃の設定について改善が必要です。 |
| | <input type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを削減することは困難 | | |
| | <input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある | | |
| | <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない | | |
| 効率性の評価 | <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善している | 課題認識 | 事務処理の面で使用料の請求や収納の事務に改善の余地があるため、事務処理の効率化による人件費コストの削減を図る必要があります。また、受益者負担の適正化の観点から、近隣の賃貸サービスの実態を把握し、助成金制度のあり方や家賃の設定について改善が必要です。 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある | | |
| | <input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている | | |
| | <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている | | |
| 職 | <input type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい | 課題認識 | 事務処理の面で使用料の請求や収納の事務に改善の余地があるため、事務処理の効率化による人件費コストの削減を図る必要があります。また、受益者負担の適正化の観点から、近隣の賃貸サービスの実態を把握し、助成金制度のあり方や家賃の設定について改善が必要です。 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである | | |
| | <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している | | |
| | <input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである | | |
| 目的達成度 | <input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである | 課題認識 | 定住化の促進と生産年齢人口の減少への歯止めという観点から入居者数増加率を成果指標としました。空き部屋がある現状では成果指標の向上が見込め、実際に入居者数も増加しています。しかし、満室の状態になれば、成果指標を変更する必要があります。 |
| | <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある | | |
| | <input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している | | |
| | <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している | | |
| 有効性の評価 | <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している | 課題認識 | 定住化の促進と生産年齢人口の減少への歯止めという観点から入居者数増加率を成果指標としました。空き部屋がある現状では成果指標の向上が見込め、実際に入居者数も増加しています。しかし、満室の状態になれば、成果指標を変更する必要があります。 |
| | <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている | | |
| | <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する | | |
| | <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する | | |

| 平成20年度の状況 | | 説明 | 目的達成のため費用対効果を考慮し現行助成金事業の廃止を含めた見直しを考えている。 |
|---|---------------------------------------|-------|--|
| <input type="checkbox"/> 重点化している | <input type="checkbox"/> 休止している | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している | <input type="checkbox"/> 他の事業と統合している | | |
| <input type="checkbox"/> 見直し継続している | <input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了 | | |
| <input type="checkbox"/> 事業を縮小している | | | |
| 目標値 | 結果指標量 55 | 結果指標量 | 110.0% |

| 総合評価 | | 評価区分 <A-E> | C |
|---|--|---------------|---|
| 入居者の入れ替わりが少なく、利用者の満足度も高いと推察されます。一方、民間賃貸サービスとの格差の是正についての検討や事務処理の効率化を改善したうえで、翌年度以降について事業を継続していきます。指定管理者への移行を十分に検討し、実践に向けての問題点を洗い出します。 | | | |

| 平成21年度以降の方向性 | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) | <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する |
| <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する | <input checked="" type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する |
| <input type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する | <input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する |
| | <input type="checkbox"/> 平成20年度で廃止・完了 |

| 平成21年度以降の改善事項 | | | |
|---------------|---------------------------|----------|-------------------------------------|
| 評価の視点 | 改善内容 | 改善時期 | 改善により期待される効果 |
| 効率性 | 請求書作成及び収納業務の効率化(収納ソフトの導入) | 平成18年度末 | 人件費コストが削減が期待できます。(時間外勤務の削減) |
| 効率性 | 助成金制度の廃止と家賃の適正化 | 平成19年度から | 民間サービスとの格差及び地域間格差の是正と事務処理が効率化が図れます。 |